1月の道内景況　情報連絡員レポート

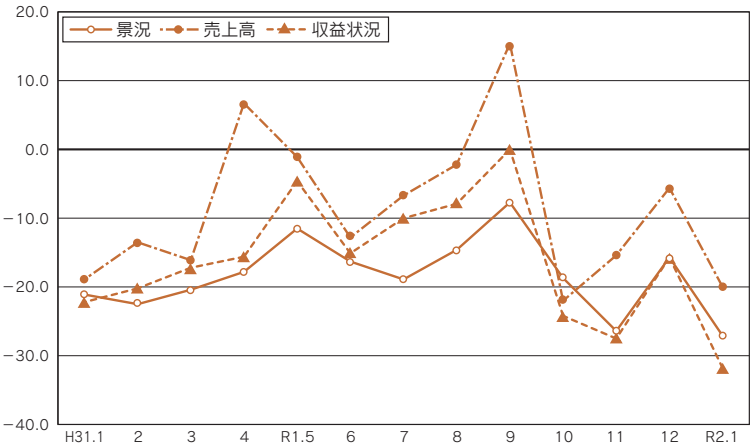
主要DIがそろって悪化　改善傾向続かず

概　況

主要DIの推移では、「景況」「売上高」「収益状況」の全てで悪化した。

業種別のDIの前月比較では、製造業では「販売価格」「取引条件」以外の項目で悪化し、特に「景況」「売上高」「収益状況」で大幅に悪化した。非製造業においても「販売価格」以外の項目で悪化するなど、厳しい状況が続いている。

主要 DI の推移



景況天気図（前年同月比）

	全業種			製造業			非製造業		
	12月	1月	前月比	12月	1月	前月比	12月	1月	前月比
業界の景況	△15.7	△27.1	△11.3 ↘	△15.2	△34.4	△19.2 ↘	△16.1	△22.6	△6.6 ↘
売上高	△5.6	△20.0	△14.4 ↘	3.0	△18.8	△21.8 ↘	△10.7	△20.8	△10.0 ↘
収益状況	△15.7	△31.8	△16.0 ↘	△12.1	△28.1	△16.0 ↘	△17.9	△34.0	△16.1 ↘
販売価格	2.2	5.9	3.6 ↗	3.0	6.3	3.2 ↗	1.8	5.7	3.9 ↗
取引条件	△1.1	△3.5	△2.4 ↘	0.0	0.0	0.0 →	△1.8	△5.7	△3.9 ↘
資金繰り	△4.5	△9.4	△4.9 ↘	△3.0	△9.4	△6.3 ↘	△5.4	△9.4	△4.1 ↘
雇用人員	△11.2	△16.5	△5.2 ↘	△9.1	△15.6	△6.5 ↘	△12.5	△17.0	△4.5 ↘

（凡例）　30以上　10～29　9～△10　△11～△29　△30以下

天気図の見方　各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」（または「好転」）したという回答（構成比）から「減少」（または「悪化」）という回答（構成比）を差し引いた値（D・I）をもとに作成。その基準は上記のとおりです。

製造業

・暖冬による食生活の変化（おでん等の鍋物の減少）で売上高減少。1月後半からの新型肺炎の影響で国内外の観光客激減によりさらに売上減となっている。
（水産食料品／全道）
・12月単月の出荷量は味噌・醤油とも前年比増。道内の1月～12月の累計出荷量は、味噌が前年比減で、醤油は前年比増。味噌の場合、売価が下がっており、原料の国産米、アメリカ米が上昇傾向にあり、相変わらず経営環境は厳しい。（味噌・醤油／全道）
・昨年からの原料高に伴う値上げが進んでいないので収益は悪化している。
（水産食料品／函館）
・1月は消費増税の影響が和らいでくると期待したが、消費者の節約志向は変わらないようだ。1月下旬からの新型肺炎の影響は予想外に大きく、旅行客の減少、人が集まるイベントでの客数減、大型店舗の客数減につながった。北海道全体の消費が縮んだようだ。（飲料／全道）
・製材市況は、カラマツは保合、エゾ・トドマツは保合。原木市況は、カラマツは保合、エゾ・トドマツは保合。カラマツ原木は、入荷はあるが地域によりバラツキがあり、慢性的に不足している。製材の受注は、梱包、パレットの受注が少なく荷動きは悪い状況が続いている。エゾ・トドマツ原木は、回復しているが、道央圏では事業体によって不足しているところもある。未だに小径材は不足している。
原木価格が高止まりしている中で、製品受注に陰りが出てきており価格転嫁が難しくなってきている。（一般製材／全道）
・中国経済低迷の影響から自動車関連の動きが悪いことに起因する製材受注量の減少。さらに新型肺炎による経済の影響も今後の懸念材料である。
（一般製材／札幌）
・インバウンド、特に中国人観光客の急激な落ち込みによってかなりの打撃を受けている。先行きが不透明で不安感がある。（加工紙／全道）
・1月の生コン出荷量は187千m^3で、前月比17.2％減、前年同月比4.5％増となった。（窯業・土石製品製造業／全道・生コン）
・空知地域では、北部と南部における需要に大きな違いがある。北部は前年の災害復旧事業による需要がなくなったことにより落ち込んでいるが、南部は胆振東部地震の復旧工事、新千歳空港拡張工事、日本ハムボールパーク建設工事、道央圏連絡道路工事などから需要がある。
（窯業・土石製品製造業／全道・砂利）
・直近では半導体関連は普通だが、それ以外は減少傾向が続く。持ち直しの機運もあったが、中国発の新型肺炎による材料、副資材の供給不足が一部発生している。（銑鉄鋳物／全道）
・中小造船所は、新造船発注が低迷して受注で苦戦しており大変な状況におかれ今年も厳しい状況が続くと予想される。（金属製品／函館）
・全体的に低調となっている。（金属機械工作／札幌）
・売上（受注）状況に変化はないが、中国に工場を持っている企業もあることから、新型肺炎の影響がこれから出るものと思われる。（金属機械工作／旭川）

非製造業（卸・小売・商店街・サービス業）

・1月は全般的に前年並みの推移となったが、札幌市内では中国からの観光客が激減しており一般雑貨を中心に消費の減少が見込まれている。
靴履物では暖冬少雪の影響で冬物商品の最終処分が固まらず難しい局面となっている中で、年末商戦の物流費や外注加工費が膨らんでおり収益を圧迫している。（各種商品／札幌）
・社会全体の人手不足感に加え、雪不足による影響が衣料や自動車関連の卸会社に出ている。
従来からのインフルエンザに加え、中国武漢市で発生した新型肺炎が今後に与える影響が大いに懸念される。各組合員は現段階では直接的な影響はまだないと言っているが、これから出てくる可能性があると思われる。
（各種商品／帯広）
・例年よりも取引先である小売業への雪害などによる影響が少なかったこともあり前年並の推移は維持している。しかし、消費が冷え込む中、昨年末より特売で売上を伸ばしたところが多くあり、販売価格はやや低下傾向。また、物流でのセンターフィー値上げなどの要求は多くなっている。（菓子／全道）
・12月から物件等が少なく仕事量も減り苦戦している。（木材／全道）
・キャッシュレス・消費者還元事業の効果で、登録加盟店の売上が伸びているが、登録加盟店では現金売上からキャッシュレス売上にシフトしているだけで売上の底上げにはなっていないとの声がある。1月は厳冬の影響で燃料系の売上が伸びたのも売上の増加に繋がった。（各種商品／旭川）
・新年の営業開始は1月11日であるためほかの市場より出遅れ感はあるが、今年の1月の売上額は予想以上に低いとの声が多い。
特売日は普段の土曜日と変わらない。正月気分が終わったあとに営業開始なので、台所事情を考慮して商品を揃えているが肝心の客が来ない。
（各種商品／小樽）
・1月取扱高は、前年比104％の状況となり、取扱高自体は前年を上回っているが、地域商店街の専門店は前年割れの苦戦をしている。キャッシュレス消費者還元事業が10月に開始され4ヶ月が経過したが、明確に景気平準化対策になっているとは感じない。
登別温泉等の観光地も中国系観光者のキャンセルの影響は大きいと感じる。
（各種商品／帯広）
・1月末に終了した今季の道南スルメイカ漁は、函館市水産物地方卸売市場での生鮮スルメイカ取扱量が統計の残る2005年以降、過去最低を更新する749トンにとどまり、これまでの最低数量であった前年同期に比べ89トン（10.6％）の減少となった。反対に函館税関が今月中旬に発表した2019年のイカの輸入額は前年の3.8倍の72億1600万円となり、数量も1万1167トンと17年に次ぐ過去2番目の多さであった。（各種商品／函館）
・1月は毎年、年末の影響で暇になるが、今年は1月後半の新型肺炎の影響で観光客が激減し、売上が大幅に下がった。（各種食料品／札幌）
・売上高対前年同月比100.53％の実績。客単価も横這いで推移している。
（野菜・果実／札幌）
・年始早々中東情勢の悪化で、一時原油が急騰しすぐに市況に反映できず、仕入れに関しては厳しい状況であった。販売量は、1月に入ってから気温が低い日が続き、暖房用燃料は前年並みに戻ったが、車両用燃料は降雪量が昨年以上に少なく除雪機や排雪トラックが稼働せず、特に軽油は前年比50％前後となっており、冬期の重要な収益源だけに厳しい状況となった。
働き方改革が進んだためか正月三が日を休業するSSも多かった。
（燃料小売業／稚内）
・1月は初売等により前半まで比較的取扱高では好調だったが、中旬以降は12月同様に消費増税、暖冬等の影響を受けて本当に厳しい状況が続いているとの声が多かった。（特に衣料品関係小売店）
1月の取扱高については、前月同様にキャッシュレスポイント還元効果により、前年を大きく上回る取扱高となった。部門別ではカード部門で、個品ローン部門・キャッシング部門のマイナスをカバーした状況。各加盟店からはキャッシュレス還元により現金以外で決済する割合が増えているとの声が多い。（各種商品／釧路）
・1月は少雪で、除雪機を扱う店は動きがなかった。
月末の道東方面やオホーツク海側の大雪で春が心配である。
（自転車・自動車／全道）
・年明けは例年通り客数が減少した。月の後半は新型コロナウィルスの影響もあってか、中国人観光客が例年よりも少なく感じた。（鮮魚／釧路）
・大型スーパー2店を含む食品関連業種の前年比は95％、ホームセンターを含む一般店の前年比は87.5％、食品関連スーパーはクレジットカード決済が増加傾向にある。一般店においては、消費増税による買い控え感が強い。特に家電・家具の業種は昨年比60％程度である。（各種商品／芦別）
・米国、イランの軍事衝突等の影響を受け中東情勢は極めて深刻な状況が続いていたが、ここにきて原油価格も落ち着き、1月については卸価格も相対的に安定した状況となっていた。しかしながら、小売段階においては価格に反映できていない販売業者も多く厳しい経営環境を余儀なくされている。（燃料／全道）
・小売フェア等の成約が良く、クレジットの取扱件数も多かった。
新車価格の上昇により、中古車の小売価格も年々上がっている。
（中古自動車／札幌）
・藤丸百貨店の12月売上高は、6億61万円（前年同月比12.2％減）となり、消費税増税の反動が続いている。（各種商品／帯広）
・燃料用重油の値上げが懸念されたが、値上げもなく営業状態は可もなく不可もなくほぼ現状維持。（公衆浴場／全道）

非製造業（建設・運輸業）

・昨年4月、組合員企業に新入社員（ほとんどが新規高卒）が入り、組合が運営する技術学院（職業訓練）に訓練生として13名入校したが、昨年12月までに5名が退校（退職）した。すべて新卒者だった。
今年3月末をもって4組合員が脱退するが、そのうちの3社は社長が60歳代後半、職人も60歳代となっており、若手の入職・育成もままならないことから近い将来廃業するとのことである。（塗装工事／札幌）
・正月休み中、降雪がないことがかえって水道管の凍結につながり、業者は修繕対応に追われた。また少雪のため除雪作業を請け負っている業者は暇をしている。
今の時期は業務が少なく、従業員の雇用調整もありそうだ。（管工事／名寄）
・新型肺炎の影響で、物の動きが少なくなっている。
（一般貨物自動車運送／小樽）
・青果物については先月に引き続き市況が悪く、荷動きが鈍化している。一般カーゴについても同様であり、車両不足はまったくない状態。
域内輸送についても同様で、荷動きが鈍化している中、少雪のため1車当たりの運行効率が上がり休車が増えている。また排雪でダンプの運行が活発化する時期であるが雪不足の影響で稼働が著しく減少している。
（一般貨物自動車運送／石狩）
・売上高は前年同月比1.9％減少。乗務員数は前年同月比4.6％減少。12月分チケット取扱高は前年同月比5.3％増加。（一般乗用旅客／旭川）